

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成28年度病虫害発生予報第3号

平成28年6月1日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 少 並
ジャガイモ	疫病	—	やや多
モモ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 早 — 並 並 —	やや多 並 やや多 やや少 やや少 やや少
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	早 早 早 並	並 並 並 やや少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	— — —	やや多 やや多 やや多
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	やや多 やや少 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	— —	やや多 並
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 並 並
キク	白さび病 ナミハダニ	やや遅 やや遅	少 並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

イ. 降雨が続く場合は、発生を助長する条件となる。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は39頭であり、平年（121.4頭）より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は3頭であり、平年（20.6頭）より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月16日の巡回調査によると、発生は平年よりやや多かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（早生種）

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月6日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は39.3%で平成(9.8%)より高く、5月20日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平成並であることから、幼果への感染量は平成よりやや多いと考えられる。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **並**

予報の根拠

ア. モモの生育は平成より早く推移している。

イ. 5月20日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平成並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日(果実生長第2期以降は20日)とされている。5月の降水量はほぼ平成並であったため、幼果への感染は平成並と考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平成(4.9%)より高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「昨年の8月中旬の発生圃場数」は多い(岡山県病害虫防除所調査)。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第3号(5月13日発表)「モモせん孔細菌病の防除を徹底してください」、第4号(5月30日発表)「モモせん孔細菌病の防除を徹底してください!」参照。

(4) モモハモグリガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平成(20.4頭)より少なかった。

イ. 5月20日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平成(7.9%)より低かった。

ウ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平成(3.7頭)よりやや少なかった。

イ. 5月20日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は3.6%で平成(4.6%)よりやや低かった。

ウ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は4頭で、平年(29.7頭)より少なかった。フェロモントラップでの誘殺数は37頭で、平年(320.6頭)より少なかった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年よりやや早く推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、5月27日まで発生を認めていない。

ウ. 5月20日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年より早く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年よりやや多く、本病の発生をやや助長する気象条件であった。

ウ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合には発病を抑制する条件となる。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年より早く推移している。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(7.5%)より低かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平成(3.1%)より高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、降水量が多い場合は発生を助長する条件となる。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平成(43.3%)より高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、降水量が多い場合は発生を助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で平成(21.7%)よりやや高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬~7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬~8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平成(27.1%)よりやや高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 **やや遅** 発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平成(12.5%)より低かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平成並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではトップジンM水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセシンプロアブル、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(2.9%)より高かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、発生を助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は31頭で、平年(26.2頭)並であった。

イ. 5月23日の巡回調査によると発生圃場率は40.0%で、平年(38.3%)並であった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は191頭で、平年(470.7頭)より少なかった。

イ. 5月23、26日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年よりやや多かった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ:2.5%、トマト:1.2%)よりやや低かった。

ウ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月26日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

4. 花き

(キク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（18.4%）より低かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並または多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期	やや遅	発生量	並
------	-----	-----	---

予報の根拠

ア. 5月23、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.5%）よりやや低かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。